

【灯】 「冬の楽しみ」

<2023/12/12 大分合同新聞掲載>

だんだんと日が短くなるこの時季。寒さが身に染みて、何となく気持ちも足取りも重くなりがち。ウインタースポーツもからきしな私には、少し憂鬱（ゆううつ）な季節です。

とはいいつつも、こと食べ物となると話は別。食欲の秋に負けないぐらい、冬の食べ物は魅力的だと思います。脂の乗った寒サバの塩焼きや、ホクホクの煮カボチャ、サクサクのカキフライ。想像しただけで晩ご飯が待ち遠しくなります。

そして冬といえば、何といても鍋物。最近ではさまざまな種類の鍋スープが売られており、定番ものから変わり種まで、手軽に楽しめるようになりました。材料を切って煮込めば出来上がるので、忙しい日でも安心です。

1人暮らしが長くなってくると、鍋物との付き合い方にも慣れてきます。最近では1人用の便利なセットもありますが、自分好みの鍋を作ろうとすると、材料を少しずつ買うのは難しく、いきおい3人前ぐらい作るようになります。さて作り過ぎた分はどうするか。翌朝も食べる。その夜はキムチを入れるなり肉だんごを入れるなり、目先を変えて食べる。ようやく具がなくなってきたら雑炊にして完食。

でもそんなに鍋ばかり続いて飽きないの？ いえいえ、私にとっては鍋物に爛（かん）酒が最高の取り合わせでしてね…などと言っていると、冒頭の「冬は憂鬱」という書き出しがまるであのように聞こえるのでした。（日本銀行大分支店長）